

よろずは

平成二十七年
一二月号

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです

万葉文化館 おすすめ万葉歌

龍たつの馬まも

今も得えてしか

あをによし

奈良の都に

行こきて来たむ為め

万葉集 卷五十八〇六 大伴旅人

【意訳】

天空を駆ける龍の馬も今は欲しいものです。

美しい奈良の都に行つて帰るために。

龍とドラゴン

西洋のファンタジー映画などには、しばしば強大な悪役としてドラゴンが登場します。ドラゴンは、神話にも登場する想像上の怪物で、翼つばさと爪つめを持ち火を吐く巨大な爬虫類ちゆうるいとしてイメージされていたようです。

一方で東洋には、よく似た想像上の生き物として龍りゆうがいます。現代では西洋のドラゴンと混同されることもあります。東洋の龍はもともと水神としての性格があり、西洋のドラゴンとはずいぶん異なります。龍は麒麟きりん・鳳凰ほうおう・亀かめとともに四霊の一つであり、青龍せいりゆうは白虎びやくこ・朱雀すざく・玄武げんぶとともに四神の一つでもあります。とくに中国では尊ばれ、強く神聖な龍は天子や君主の象徴ともされました。常に深淵に住み、雷雨とともに昇天し、自由に空を飛ぶ神通力じんつうりきを持つとされています。この歌は、そんな天空を駆ける神通力を持った龍のような馬がほしい、と詠んでいます。大宰府で詠まれた歌で、奈良県と福岡県との行き来が一晩ではなし得なかった当時だからこそ生まれた歌だといえます。

【万葉古代学係】